

特集
雑誌

自由国民

現代用語 の基礎知識

時代の動きとともに成長する新語年鑑

1958年増補版

池田雄蔵 宮川実 大河内一男 近藤康男 野田全治 上坂西三 山口茂 鈴木武雄 高島善哉 高木惣吉 横田喜三郎 鵜飼信成 辻清明 中村哲

★時局用語

各界の権威	五十氏によ	る解説
-------	-------	-----

平井信義 高橋吉定 湯浅明 辻村太郎 朝比奈貞一 茅誠司 辻二郎 吉田秀和 今泉篤男 本多顕彰 江上波夫 西岡虎之助 林健太郎 戸川行男 宮原誠一 岸本英夫 高桑純夫

★文化用語

吉田健一 井上勇 山野愛子 桑沢洋子 黒田初子 今和次郎 矢野目源一 内村祐之 織田幹雄 春日由三 新井正義 山田肇 津村秀夫 大宅壮一

★日常用語

宮木高明 宮本忍 萩原雄祐 和達清夫

臨時増刊

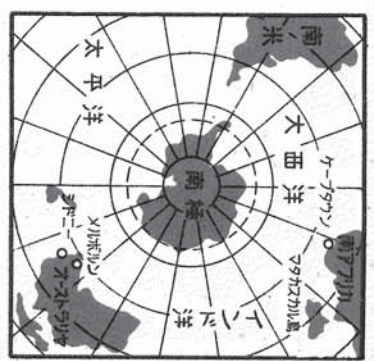
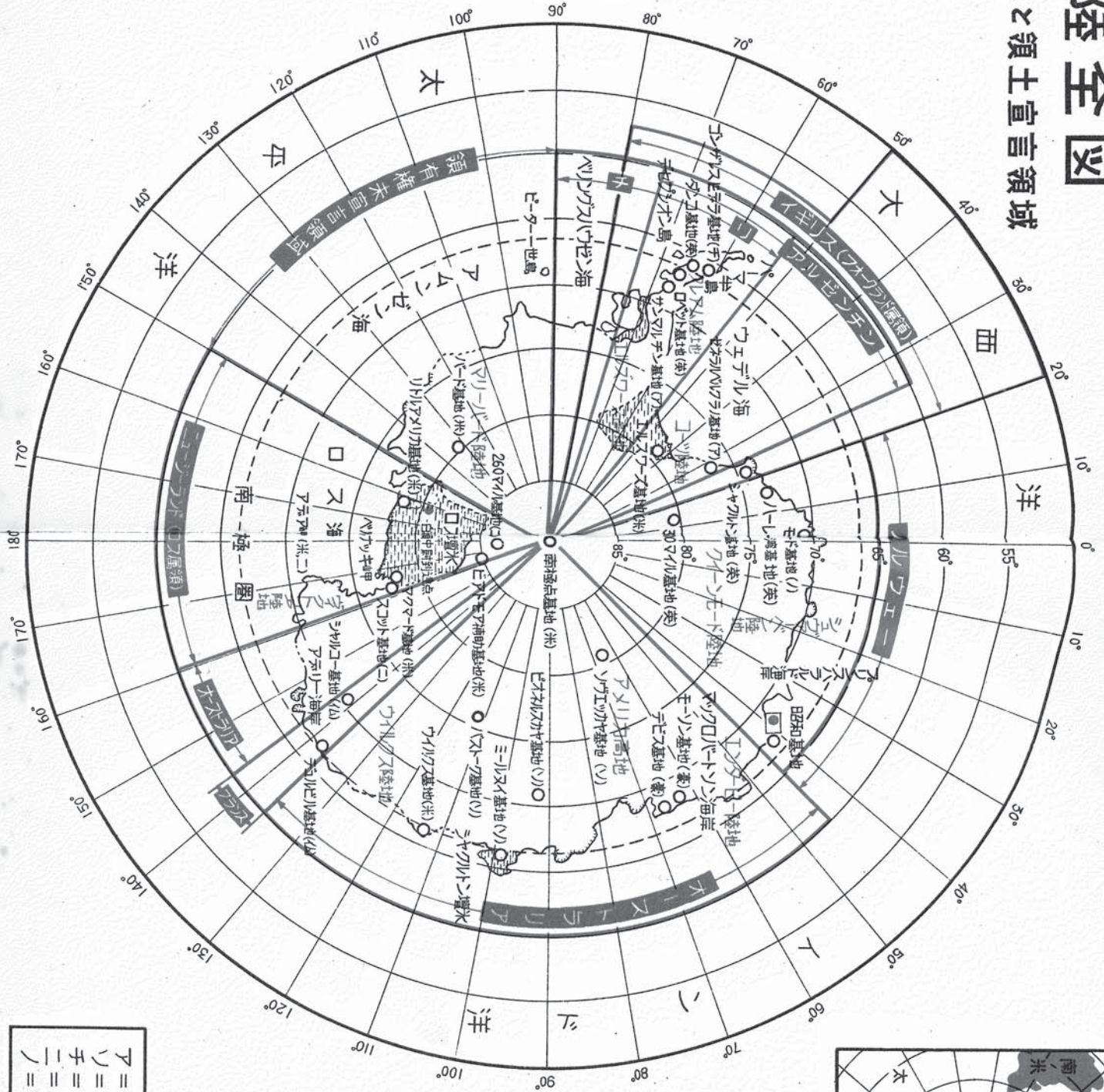
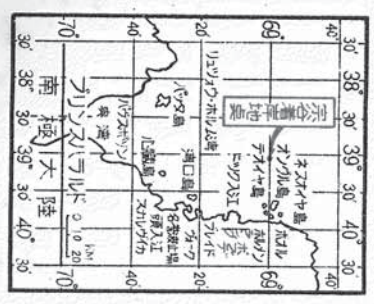
自由国民社
発行

南極大陸全圖

各国の観測基地と領土宣言領域



縮尺の日本



〔注〕南極大陸の領有宣言は探検の先鞭をつけた各国によつて図の通り行われているが、領有宣言期間でもイギリス、アメリカ、フランス、ソ連は各国の領有宣言を承認して行われていない。日本はサンフランシスコ条約で南極大陸に対する領土権を放棄している。

- △ = アルゼンチン
- = ソヴェット
- = フランス
- = アメリカ
- ◇ = ノルウェー

〔主〕アメリカとソ連は各国の領土宣言を認めていない

新しい家事用語

今 和次郎

住生活

組立住宅 (プレファブ)

工場量産した部品を組立てて造る住宅。従来の手工業的な生産方法を近代的な工場制工業に切換え、生産の合理化をはかつてできた住宅であつて、工場生産住宅、量産住宅などともいう。プレファブというのは Prefabricated-house の略で、英語としても新語である。第一次大戦頃からドイツで実験的に行われ、第二次大戦と前後してアメリカでは実用化し、住宅建設に大きな役割を果たした。

エレベーション (Elevation) 立面図のこと。俗に略してエレベなどともいい、表面だけが立派で、裏へ廻るとお粗末な街場の商店建築などを、軽蔑的に行うときに、

「エレベはよいが……」などという。

成長する家 (Wachsende Haus)

独) ワクセンデハウスともいい、一九三一年ブリュッセルで行われた第三回国際新建築家会議 (CIAM) に提出された住宅計画案。マルチン・ワグナーの提案で核としての最少限住宅の周囲に、家族の増加に応じて部屋を増築できるようにしたもので、核ユニットと増築部分を規格化し、工場生産して廉価に供給しようとするもの。その案は翌年ベルリン博で展示されて反響は示したが実施には移されなかつた。しかし、ユニットの工場生産およびその商品化にむりがあつても、その着想は戦後の日本においても生かし得よう。

スナック・バー (Snack Bar)

軽い食事をつとめて、すぐに立てるのがみそ。最近では台所のハッチあたりにも、この種の形式をとりいれるのが流行しており、あわたたしい朝食時には有効に機能する。

ローコスト・ハウス (Low-cost house)

通俗には「低廉住宅」といわれ、実質よりは安価にできた家という。経営ならびに生産の合理化によつて、生産費を下げ相対的に安い価格で造られるのが正常のコースであつて、うまく話込んだり、値切つたり、ごまかしたり、質を落したりして造つた値段の安い家はむしろ裏通りのものである。しかし、どちらかといえば後者の方に傾きやすい。

パース (Perspective drawing)

透視図の略称。日本的には、姿図のこと。

服装用語

シルエット

《シルエット》
Aライン (A Line) ク

九五五年春に発表されたテーマの一つで、狭い肩幅、ルーズなウエストにスカートがAの字のように、裾ひろがりになつたシルエットである。

Yライン (Y Line)

同じくデイオールが一九五五年秋に発表したもので、デザインのポイントが上半身に移り、豊かな胸と広い肩幅に、Yの縦の棒が下半身の意味で、ほつそりと流れる線を持つたシルエット。

アロウ・ライン (Arrow Line)

デイオールが発表した五六年春のシルエット。特徴はハイ・ウエストで、胸にベルトをつけてバストを強調した。全体に細長い感じなので f (エフ) の字の感じなので「fライン」ともいわれる。

マグネット・ライン (Magnet Line)

デイオールの発表した五六年秋のシルエットで、フランス語でいうと「リーニュ・エーマン」。肩の線からなだらかな広がり



軍事用語の解説

軍事評論家 高木惣吉



一九五八年版執筆に際して……

世界の軍事政策は、一九五七年を期して大きく転換した。すなわち米国のネオ・ニュー・ルック政策、英国のニュー・モデル政策はいずれも核兵器戦争態勢へはつきり踏みきつたものである。

これに対してソ連が大陸間弾道弾の成功を発表したことは、西欧側の対ソ包囲陣によって、これまで戦略的態勢の不利を感じていた共産側の有力な反撃と見られていた。内面の理由は別として、軍縮交渉もこのため一応足踏みの余儀なきありさまに陥つたとみえる。陸軍の編成はペントミックス化され、原子支援部隊という新たな核砲兵隊が生れ、また中距離弾道弾が実用量産の段階になつたことも疑う余地がない。このことはソ連側もおなじで、遠距離爆撃航空隊 (ADD) が陸軍から独立し、大型爆撃機の量産、原子砲、弾道及び誘導弾では米国と先頭を争っているのは周知のとおりである。

このように東西両陣営が互に力の優越を争い、その均衡によつて平和を維持する現状では、軍事問題の理解はむしろこれまでに倍加した印象を深くする。

作戦用語

絶対兵器 (Absolute weapon) 最終兵器 (Ultimate weapon) 原子核の分裂または融合の際に放出されるエネルギーを利用した原爆あるいは水爆の別名である。なお米陸軍で使う Individual weapon あるいは Hand weapon というのは携行兵器とか、個人装備兵器の術語である。

細菌兵器 (Germ weapon) 悪疫を伝播する病原菌または人体に有毒な細菌を特殊の爆弾、噴霧その他の方法で、敵地あるいは敵軍に散布する兵器。一九二五年のジュネーヴ議定書でその使用禁止が約束されている。

報復兵器 (Retaliatory arms)

第二次大戦の末期にドイツ軍が考案したV兵器は、連合軍の空襲に対する報復兵器の名で登場した。今一つの意味は毒ガス、細菌兵器または原子兵器など残酷な大量殺人兵器を、敵の挑戦あるいは同種兵器の使用に対する報復手段として使うときに名づける場合である。最近アメリカでよく使われる報復力 (Retaliatory Capabilities or Forces) は主として戦略空軍 (SAC) を指すが、広い意味では攻撃力のことである。

ABC兵器 Aは原子 (atomic) 兵器、Bは生物学 (biological) 兵器、Cは化学 (chemical) 兵器を総称した

見せて東洋的な柔かな線を強調したものの。日本語でいうなら、馬蹄型磁石をもう少し柔らかくしてさかさにしたものと思えばよい。そこで「磁石ライン」という。

エンパイヤー・ライン
(Empire Line) 極端なハイウエストで胸のすぐ下に切換線をつけたり、ハイ・サッシュ(胸高帯)を結んだりする。腹の部分が全くないわけである。名前の由来はフランス帝政時代の婦人服のスタイルをまねたところからきている。

ペンシル・シルエット
(Pencil Silhouette) ドレスの全体が細くて鉛筆のような感じのシルエット。

ロング・トルソー
(Long Torso) 彫刻で、胸の部分だけで頭、手足のないものをトルソーといい、これから出て胸の長いシルエットをロング・トルソーという。

シース・シルエット
(Sheath Silhouette) シー

にピッタリとした外郭線という。ナロウ・シルエット、スリム、スレンダーなどもほぼ同義。

ダッチボーイ・シルエット
(Dutch boy Silhouette) デイオールのマグネット・ラインを扱つて、デザインされたもので、七分ソデの短いジャケットとゆつたりしたスカートでマグネット・ラインを出したものの。

キャラコ・スタイル
クリスチャン・デイオールの発表した五六年春の古典的なテーマの一つ。ポレロに似た短いジャケットのようなものでアロウ・ライン(その項参照)と同様、バストの線を強調した感じを出したものの。ポレロは普通ボタン止めは前にあるが、これは後ろについているのが特徴。

プリンセス・スタイル
(Princess Style) 王女のスタイルという意味の通り、女

の切り替線が肩から乳の上を通つて、スカートの裾へ向つてゆるやかに開いている。最近また流行しだしたものの。

チューニック・スタイル
(Tunic Style) ジャケットやブラウスに長めのひだのないペプラム(上衣の腰から下の部分)がついた新しいスタイルで、丈は腰から膝上近くまでの長さのものもある。五五年のチューニックは、ウエストのしまりのないストレートなものである。

曲った線 ジャケット・エイムのデザインで、別名、Sラインとも呼ばれるスタイル。ウエストがめだたなく、やや、ハイ・ウエストの効果を出し、バックをふくらませたり、ドレープさせたりして脊中のヴォリュームを出そうとしたものの。

落下傘スタイル サランのマジック・ペティコートを誇

ひろがることから、名付けられた。

イヤー・ラウンド・ファッション
(Year round fashion) 一つの服を四季を通じて着る流行をいう。戦争による生活様式の簡素化および経済化が生んだ流行の一つ。スカート、ブラウス、ジレ(スーツの下に着る胸衣のこと)ジャケットの三つ組などと巧みな組合せで季節・用途など多用に利用できるのが特長である。

シャツ・スタイル
(Shirts Style) 上衣、ワンピースなどをシャツ風に仕立てたものをいう。
エジンバラ・ジャケット
(Edinburgh Jacket) 英国のエジンバラ公が狩猟にいくとき着用したもので、衿なしのジャケットのこと。

トレアドル・パンツ
(Treadle Pants) 闘牛士が着る脚にびつたりした丈短かいパンツにヒントを得た婦人用ズボン。その他、ニー

増補 (1)

最新の時事語と流行語

この項には、一九五七年版の編集を終えた昭和三十一年十二月から三十二年七月までの新聞雑誌にあらわれた、時事語、新語、流行語を収録した。

政治・法律

副総理

副総理という制度は官制上の制度としてはなく、ただ総理大臣が事故あるときに代理する有力閣僚の一人にそういう名前がつけられるだけである。内閣法第九条にある「総理大臣事故あるときは、その予め指定する國務大臣が臨時にその主任の國務大臣の職務を行う」という場合の「予め指定する國務大臣」が実質上の副総理である。岸改造内閣で、旧自由党勢力を代表して石井光次郎氏が副総理で入閣したが、これと見合つて大野伴陸氏が自民党副総裁になり調節が行われている。

吉田内閣の時は緒方竹虎副総理がよく国会答弁にあたつたが岸首相は国会答弁その他一切の実務をきりまわしているので、石井副総理は多分に飾りものといわれている。

閣僚審議会

外貨予算を決めたり、変更したりする最高機関で、外国為替および外国貿易管理法第三条によつて内閣に設置されている。総理大臣を会長とし、外務、大蔵、通産、農林、運輸、経済企画庁の各大臣が委員で、ほかに日銀総裁が諮問委員の資格で参加する。ふつう三月末と九月末に開いて上半期、下半期の外貨予算を決定し、また実行の途中で中間検討を行う。下部機構として幹事会があり、予算の追加、運用などを

経済関係閣僚懇談会

行わせている。

岸第二次内閣は政策を推進運営する二本柱として経済関係閣僚懇談会と労働対策閣僚懇談会の二つを常設した。経済関係閣僚懇談会は経企庁長官、蔵相、通産相、農相によつて構成され、まず国際収支の赤字対策には、いわゆる政策変更の手直し論を否定した。ついで中小企業の融資措置で緩和策をはかるなど、政府の総合経済政策の中核となるものである。

岸体制

岸首相を中心とした政治指導権の確立である。戦後のわが国保守政権は

吉田時代、鳩山時代を経て岸時代を迎えようとしている。ところが岸政権成り立ちのい

きさつからみても派閥の多い自民党の大世帯を岸一色で統一することはなかなかの難事である。しかも党内をまとめ、政権を安定させてゆくものが岸氏以外に見当たらないとすれば、どうしても岸氏を中心として新しい党内体制を打ちたててゆかなければならない。それには、石橋前内閣をそつくりそのまま引きついだ岸内閣をある程度岸首相の好みによつて改造し、また党内人事をも岸総裁のやりやすいように変え、こうして政府、与党に岸体制を確立し、政権の安定、長期化をはかるうといふのである。

中間報告(国会の)

国会の審議方法は、まず議案を常任委員会で審議し、その結果

言葉。将来の戦争に猛威をふるうと見られるもので、Aは水爆を含み、Cは毒ガス、放射性霧塵、ホルモン爆弾を含む。これらの兵器を使う戦略をABC戦略と呼ぶ。

空挺作戦 (Airborne Attack) 輸送機より落下傘部隊その他の軍隊、戦車などを空輸し、敵の後方要衝あるいは決勝点に集中または機動を行う作戦。第二次大戦から最も機動性の大きな戦法として認められ、ドイツ軍は海上輸送によらず、空挺部隊だけでクレタ島攻略に成功した。地上または海上部隊と協同(統一)する立体作戦は、将来戦の原型と称せられる。

三軍連合(立体)作戦 (Tripartite Operation) 陸海空三軍の一致(協同)した立体作戦のことで、これまでは陸海協同(連合)作戦(Amphibious)がよく使われたが、これからは飛行機の参加はいかなる戦闘にも欠くことができなくなつた。

機動戦 (Mobile op. or War of Movement) 飛行機、戦車、装甲車あるいは艦艇などの高速を利用して機動力(移動性)の優越を計ることが現代戦における勝利の鍵となつた。かように艦艇兵器の速力を活用して火力の集中的効果をあらわし、戦局を決するのを機動戦とよぶ。

器材戦 (Material war) 新兵器または老大な軍需物資の力で勝敗がきまる戦い。
魔法戦法 (Wizard war) 第二次大戦で新兵器の非常な進歩によつて、その大量殺人の恐るべき効果に因み、チャーチル前首相の初めて使つた言葉。器材戦の極致の意味。

技術兵力量 兵員、軍艦、飛行機等の数量を兵力量といひ、これに対し装備兵器、飛行機、弾薬、艦艇などの質的、技術的水準の高低をもつて戦力を表現するときに用いる。
制限戦争(局地戦争) (Limited or Local war) 本来は戦争原因となる政治目的の

制約がある一般的戦争の通称だが、最近では政治的理由ばかりでなく、戦路上からでも作戦規模及び作戦地域をある範囲に止めている戦争(たとえば朝鮮戦争)を意味する。

プッシュ・ボタン・ウォー (システム) (Push-button War or System) 軍事機構の高度な機械化、スピード化と原子力兵器などの発達で、本国最高司令部のボタン一つ押すことではじまり、かつ終るような戦争または機構という意味。
絶対戦争 (Absolute War) 手段に制限なく、敵味方の相互反応から極端な激しさとなる理論上の純粹な戦争型態をいう。また無制限戦争 (Unlimited War) ということを制限戦争に対して使ひ、冷戦に對し、熱戦 (Hot War)、暖かい戦争 (Warm War) ともいう。打ち合い戦争 (Shooting War) は広く冷戦に對して、砲火の飛び交う戦争に使われる。原水爆使用が予想される熱戦を

全面戦争 (Global War) 並びに朝鮮、インドシナ戦争のごときを暖かい戦争という。
直接(間接)侵略 (Direct or Indirect Invasion) 正規軍(義勇軍を含む)により他国に侵入する不法軍事行動を直接侵略といい、第五部隊を用いたり、或は煽動または陰謀による内乱その他の破壊行為を加えたり、秩序、生産、民心の安定を内部からきりくずすことを間接侵略という。

橋頭堡 (Bridge Head) 河川を挟んでの攻防には、橋梁または渡河点の両端に強固な陣地を作ることは古くからの常則で、橋頭堡または橋頭陣地の名はこれから生れた。現在の意味は渡河、上陸作戦等で敵戦線の一角を占拠して足場にし、後続部隊を前進させるときなどに用いる。

予防戦争 (Preventive War) 一九四九年秋、ソ連が原爆実験を行つてからの米軍部一部の主張で、賛否両論をまき起した。ウイルソン長官

が、これからは飛行機の参加はいかなる戦闘にも欠くことができなくなつた。